

丹後人権教育指導者研修会

令和6年12月6日（金）、みやづ歴史の館において公民館等関係者を対象に「令和6年度丹後人権教育指導者研修会」を与謝地方公民館連絡協議会・京丹後市公民館連絡協議会との共催で開催しました。

講師にはFacilitator's LABO 代表 栗本 敦子 様をお迎えし、「身近な“あたりまえ”から、あらためて考える人権 『個人の心がけ』から『社会の構造』へ」と題して講演・演習をしていただきました。

今ある社会はマジョリティ（多数派）の志向に合わせてつくられており、マイノリティ（少数派）が不利益を被っていることに気づきにくいこと。一人の人の中にもマジョリティ性（優位）・マイノリティ性（不利）があるが、マイノリティ性（不利）には気づきやすく、マジョリティ性（優位）には気づきにくいこと。そして、その気づきにくさは差別につながりやすいことなど講演・演習を通して学ばせていただきました。また、人権について考える上では、様々な状況を社会モデルで捉えることが大切であるという視点も与えていただきました。

参加者の感想から、「身近なあたりまえ」に偏りがいないかを皆で考え続けることが人権感覚を磨くことにつながるといった気づきや個人モデルでなく社会モデルで考え、差別がある社会を変えていこうとする意識の高まりを感じました。

この研修会を機に、丹後地域における人権教育がさらに充実し、誰もが安心して暮らすことができる地域になるよう、皆様と学び続けていきたいです。



<参加者感想より>

- ・ワークショップを通じて人権感覚を磨くことができた。
- ・マジョリティとマイノリティは数ではなく社会的な力の偏在であること、また、特権があるマジョリティの意識を変える必要があること等を学んだ。
- ・ペーパーアクティビティ（一人一人の受け止め方の違いを考えるワーク）を公民館でやってみようと思った。
- ・社会モデルの捉え方を多くの人に広げることが大切だと感じました。